

色とりどりの花と木々の緑が「わが世の春」を謳歌（おうか）するこの季節、読者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今日は母の日ですね。大阪の実家に住む私の母は78歳。母は私の小さいころ、気が強く厳しい半面、頼もしい存在でしたが、この年になると背中も少し丸くなり、体が小さくなったように感じます。とはいえ、毎朝ウォーキングに精を出しているとかで、歩く速度は遅くなりましたが、しっかりと歩き、徒歩と自転車と電車であちこちに出かけています。

その母が先日、友人宅におしゃべりに行き、不要になった冬服をいただいて帰ったそうです。ただ、その量が少し多過ぎ、紙袋4袋を抱えて帰る際、途中で重くなって紙袋を引きずりながら駅の階段を降りていたところ、底が破れ、衣類が散乱してしまいました。

すると、下のホームから見ていた女子高校生3人が駆け寄って衣類を拾い集め、母の紙袋を手分けして持って一緒にホームに降りてくれたそうです。女子高生3人はジャージ姿。陸上部の試合からの帰りでした。3人と母がホームに降りると、既に電車が入線していました。3人は「おばあちゃん、うちらがこのまま袋を持ってあげるから、早くに電車に乗って」と言って一緒に乗り、電車内では、かばんからテープを出して袋を補修してくれたそうです。

母たちが乗車したのはJR茨木駅（大阪府茨木市）。私の実家の最寄り駅は新大阪駅（大阪市淀川区）で、快速で8分です。一方、女子高生3人は大阪府藤井寺市から来ているとのこと、さらに50分ほどかかります。ところが、新大阪駅に着いて母がお礼を言って降りようとする、3人も一緒に電車を降りました。

「荷物がいっぱいあって大変やろうから、うちらが自転車置き場まで運んであげるね」

そう言って3人は母と一緒に改札を出て荷物を運んでくれました。JR新大阪駅は広く、在来線ホームから母の使っている自転車置き場まで約200メートルあります。時刻も夜の8時ごろ。それでも3人は平気な顔で自転車置き場まで付いてきてくれたそうです。

大いに感激した母ですが、女子高生らの親切はまだ続きます。3人は母の自転車を見ると、「荷物がかごに入りきれへん（入りきらない）やん。このまま家まで運んであげるわ」と言います。母はさすがに恐縮し、自宅まで1キロ近くあることを説明して断ろうとしました。しかし、3人は「いいから、いいから」と意に介さず、母を自転車に乗せると、「おばあちゃんは自転車をこいでいいよ。うちらは走るから」と、紙袋を抱えたまま母のかたわらで走り、走りながらおしゃべりして実家の玄関まで送ってくれたそうです。

別れ際、3人の親切がうれしくて、母が「細かいのがこれだけしかないんやけど、せめてお茶でも飲んで帰って」と千円札2枚を握らせようとしても、「そんなのいいから、いいから」となかなか受け取ってくれなかったそうです。

9年前に父に先立たれ独り暮らしの母。月に1度、私たち家族と一緒にご飯を食べに行くのを何よりの楽しみにしています。あとは電話でいろんな相談事を聞くぐらいで、さしたる親孝行もできていない私としては、母にここまで親切にくださった女子高生3人にお会いしてお礼を申し上げたいぐらいの気持ちです。お年寄りにとって若い人から受ける親切にはまた格別のものもあるでしょう。本当にありがたいと思いました。

【奈良支局長・岩崎日出雄】